

令和8年2月4日
みどり33推進担当部
みどり政策課

みどりの基本計画改定作業における検討状況について

1 主旨

現行の「みどりの基本計画(平成30年3月)」は令和9年度(2027年度)で計画期間が終了するため、令和10年(2028年)4月の新計画への改定に向けて、令和7年度より検討を進めている。

令和7年度(2025年度)は、みどり事業に関わる区民やイベント参加者等を対象とした、みどりへの認識を把握するためのアンケート調査を行うとともに、緑被の推移等みどりの資源調査結果や施策の実績等について量・質・協働の観点から整理・分析・検証を進めているところである。今回は、現時点の検討状況について報告する。

2 これまでの経緯

令和7年2月 都市整備常任委員会(みどりの基本計画の改定作業について)

令和7年5月～9月 みどりに関するプレアンケートの実施

3 計画の概要【詳細は別紙p1参照】

みどりの基本計画では、将来像に「世田谷みどり33」を掲げ、「みどりの量の確保」、「みどりの質の向上」、「区民との協働の推進」の3つの側面から総合的にみどりづくりを進めることとしている。また、みどりの豊かさの実現に向けた具体的な目標として「みどりの面積の割合(みどり率)」及び「みどりに関する区民満足度(大変満足)」について、2032年の33%の達成を目指している。併せて、2027年のみどり率29%の達成と区民満足度(大変満足)の25%達成を目標に掲げている。

4 みどりの現状と分析

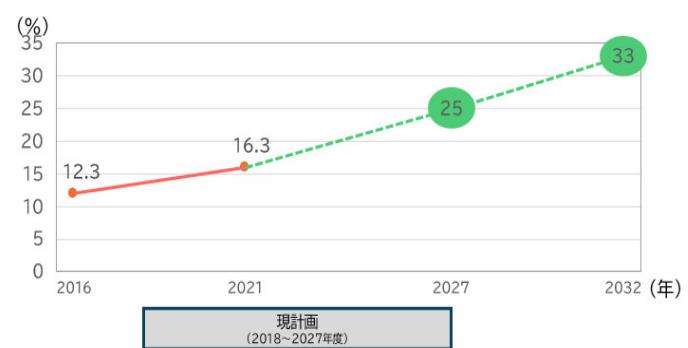
(1)「みどり率」と「区民満足度」の現状【詳細は別紙p3参照】

- みどり率は2016年から2021年にかけて25%前後でほぼ横ばいで推移している(図1)。なお、土地利用別のみどり面については、2018年から2027年までの10年間で220ha増加を目標としているが、2016年から2021年の5年間で46ha減少している。
- 区民満足度は2016年の12.3%から、2021年は16.3%と上昇している。(図2)

[図1]みどり率の推移



[図2]区民満足度「大変満足」の推移



(2) データに基づく分析状況【詳細は別紙 p 4～12 参照】

- a. 区全体のみどり率の推移
- b. 土地利用別のみどり面
- c. 地域別のみどり面の変化
- d. 地域別の土地利用「公園/民有地/農地」別のみどり面の変化 [2011 年→2021 年]
- e. みどりの量にかかる施策
- f. 協働促進にかかる施策
- g. みどりの効果

◎まとめ

- ・ みどり率は横ばいだが、公園など担保性のあるみどりや、市民緑地など行政が保全に関与しているみどりは増加している（参照：「別紙」p5, 9）。また、区全体のみどり面は減少しているが、世田谷・北沢地域のみどり面は増加傾向であり、5 地域ごとに状況や課題の違いが見えてきた（参照：「別紙」p6～8）。
- ・ 量・質・協働の向上に資する施策の広がりを確認した（参照：「別紙」p10）。
- ・ 暑熱の緩和に対してみどりが効果をもたらしていることが推察される（参照：「別紙」p11）。

(3) みどりに関するプレアンケート

① 実施内容

(i) 種類と目的

A みどりのアンケート

- 〔目的〕・日頃よりみどりの保全創出にご協力いただいている区民またはみどりに関心のある方を中心に広く、みどりへの認識を把握
 ・令和8年度実施予定の無作為抽出による区民意識調査の項目検討に活用

B 小学生・中学生向けみどりのアンケート

- 〔目的〕こどものみどりへの認識を把握する。

(ii) 対象者と周知方法

| | 対象者 | 周知方法 | 配布種類 | |
|---|---|----------------------|------|-----|
| | | | A | B |
| 1 | みどり関係団体（トラスト会員、花づくり活動協定団体、関連事業者団体等） | 個別周知 | ● | 一部● |
| 2 | 区立学校生徒・保護者、関係者等 | 学校緊急連絡情報配信サービス（すぐーる） | ● | ● |
| 3 | イベント参加者（二子玉川ネイチャーズデイ、せたがやガーデニングフェア、ふるさと区民まつり） | 当日配布 | ● | ● |
| 4 | 上記の対象者を経由してご協力いただいた方 | | — | — |
| 5 | その他ご協力頂いた方 | 区ホームページ等 | ● | ● |

(iii) 実施期間 令和7年5月17日（土）から令和7年9月30日（火）まで

(iv) 回答方法 紙またはLogo フォーム

② 実施結果 (A みどりのアンケート)

(i) 回答数 417件 (web: 374件、紙: 43件)

(ii) 結果の概要【詳細は別紙 p13~21 参照】

- a. 回答者の属性
- b. みどりに関する活動・関わりと回答者のタイプ別分類
- c. みどりの満足度
- d. 「世田谷みどり33」の認知度と共感、区の施策
- e. 地域のみどりの増減について
- f. 今後のみどりの活動について
- g. 関心のあるみどりの効果

③ 実施結果 (B 小学生・中学生向けみどりのアンケート)

(i) 回答数 320件 (web: 46件、紙: 274件)

(ii) 結果の概要 別紙 p23 参照

④ まとめ

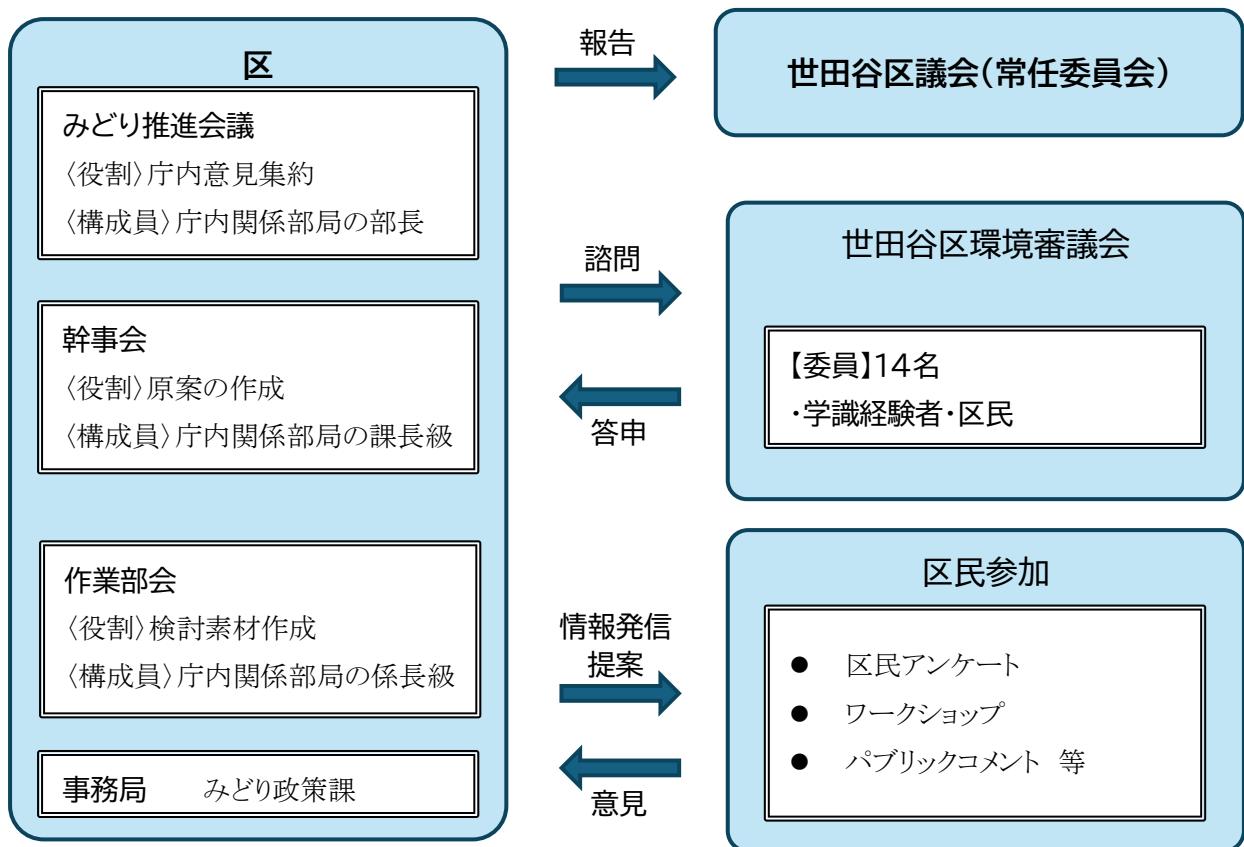
みどりに関心・関わりのある方を中心とした意見として、以下のことが分かった。

- ・ みどりの取組みに共感し、みどりの増加・維持を望む意見が多かった。(参照: 「別紙」 p18, 19)
- ・ みどりの満足度を判断する理由として、量の他に、維持管理などの「みどりの質」や活動支援など「協働」の取組みの向上や充実を挙げる意見があった。(参照: 「別紙」 p16)
- ・ みどりの取組みにより深く関わっている方ほど、「世田谷みどり33」の認知度は高く、みどり活動への意欲も高い傾向がみられた。(参照: 「別紙」 p17, 20)

(4) 今後の作業と進め方

- ・ 引き続き、量・質・協働の側面から関連データやアンケート結果等について、整理・分析・検証を行い、みどりの効果の見える化を進め、現状と課題等としてまとめる。
- ・ まとめた現状と課題等については、子どもを含めた区民と共有し意見交換する機会を設けるとともに、計画改定の検討にあたっての基礎資料とする。
- ・ アンケートについては、調査結果をまとめ、ホームページで公表する。また、調査結果より得た知見や課題については、来年度実施予定の区民アンケート（無作為抽出方式を予定）の作成に活用する。

4 計画改定の検討体制（案）



5 今後のスケジュール（予定）

- 令和 8 年 4 月 環境審議会（検討状況）
- 6 月 無作為抽出アンケート発送
 - 7 月 都市整備常任委員会（現状分析・課題整理）
 - 環境審議会（諮問、現状分析・課題整理）
 - 7 月～11 月 区民参加ワークショップ（3 回程度）
 - 9 月 都市整備常任委員会（改定の方向性）
 - 9 月 環境審議会（改定の方向性）
- 令和 9 年 1 月 環境審議会（骨子案）
- 2 月 都市整備常任委員会（骨子案、令和 8 年度資源調査速報値報告）
 - 6 月 環境審議会（計画素案）
 - 9 月 都市整備常任委員会（計画素案）
 - パブリックコメント実施（計画素案）
- 11 月 環境審議会（答申）
- 令和 10 年 2 月 都市整備常任委員会（計画案）
- 3 月 計画改定

世田谷区みどりの基本計画改定

みどりの現状と分析

| | | |
|---|------------------------|-------|
| 0 | 計画の概要 | P 1 |
| 1 | 「みどり率」と「区民満足度」の現状 | P 3 |
| 2 | データに基づく分析状況 | P 4 |
| | みどりに関するプレアンケート | |
| 3 | (A) みどりのアンケート | P 1 3 |
| | (B) 小学生・中学生向けみどりのアンケート | P 2 2 |

■概要

みどりの基本計画では、将来像に「世田谷みどり33」を掲げ、「量の確保」、「質の向上」、「協働の推進」の3つの側面から総合的にみどりづくりを進めることとしている。

■位置付け

本計画は、都市緑地法に定める「緑地の保全及び緑化の推進に関する基本計画」であり、世田谷区みどりの基本条例に基づく「みどりの保全及び創出に関する基本計画」である。

■目標

みどりの豊かさの実現に向けた具体的な目標として「みどりの面積の割合(みどり率)」及び「みどりに関する区民満足度」を2032年までに33%とすることを目指している。

みどり率 【目標:2027年度29%、2032年度33%】

土地利用別【目標:2027年度、220haのみどり面の増加】

みどりに対する区民満足度「大変満足している」※の割合

【目標:2027年度25%、2032年度33%】

◆ 緑被率とみどり率とは?

(1)緑被率

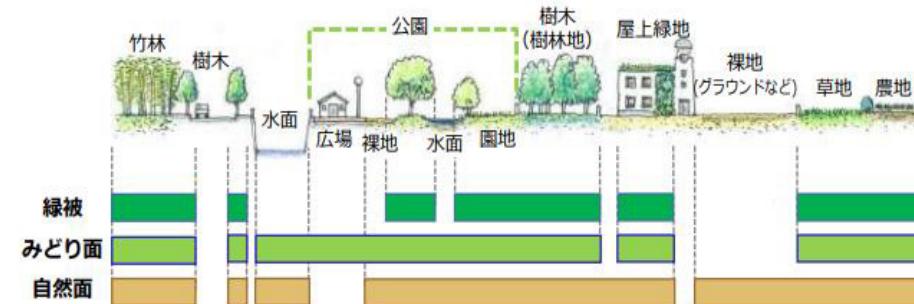
緑が地表を覆う部分(樹木地、草地、農地及び屋上緑地。)の面積が地域全体に占める割合。区内の緑被の分布及び緑被面積は、「みどりの資源調査」において、航空写真画像を判読することで算出している。なお、全国的に緑化の指標として用いられている。

(2)みどり率

緑被率に水面と公園内の緑に覆われていない部分を加えた面積(以下、「みどり面」という。)が地域全体を占める割合。

東京都が2000年に策定した「緑の東京計画」において、緑被率に「水面」と「公園の緑で覆われていない部分」を加えた新たな指標として設定。世田谷区では2001年からみどり率の調査を実施している。

■緑被・みどり面・自然面^(注)のとらえ方



注:自然面…建築物などの人工物に覆われていない土地

1. 「みどり率」と「区民満足度」の現状

■「みどり率」と「区民満足度」の現状

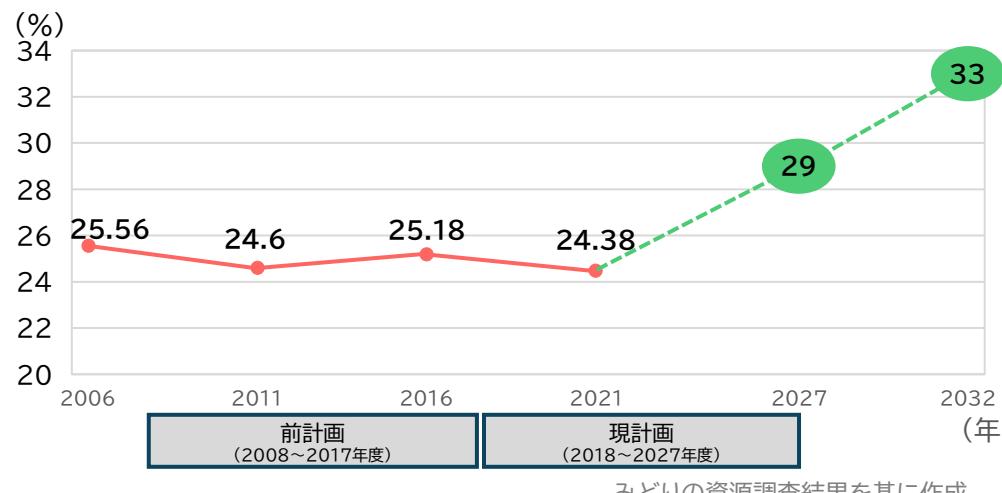
※最新(2021年)のみどりの資源調査、アンケート調査による

みどり率

【目標：2027年度29%、2032年度33%】

2016年から2021年にかけて25%前後でほぼ横ばいで推移している。

〔図1〕みどり率の推移

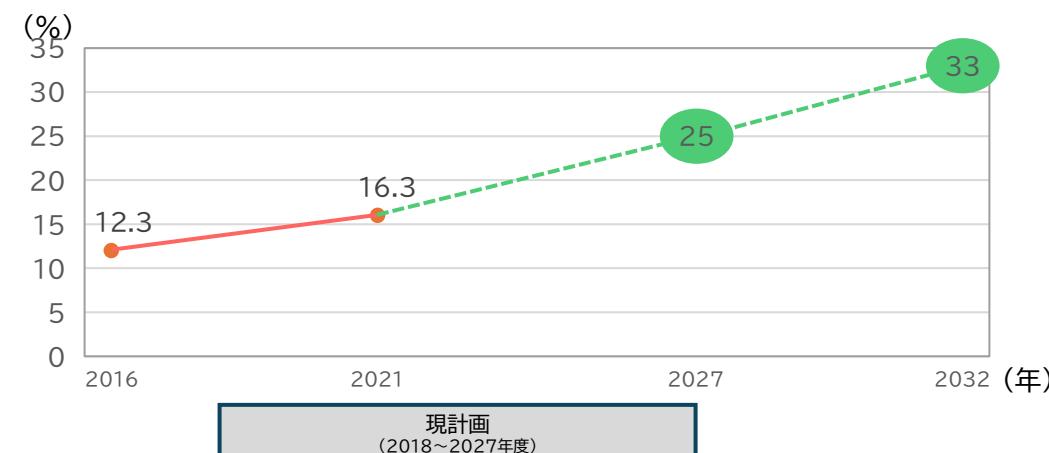


みどりに対する区民満足度「大変満足している」の割合

【目標：2027年度25%、2032年度33%】

2016年12%から2021年16%と上昇している。

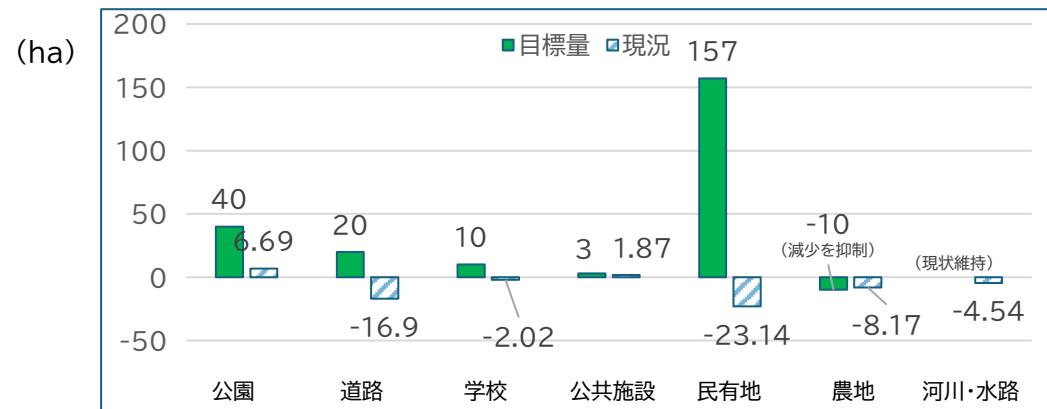
〔図2〕区民満足度「大変満足」の推移



※2016年、2021年は区政モニター調査結果を基に作成
「大変満足」「どちらかというと満足」「どちらでもない」「どちらかというと不満」「大変不満」の5択より選択。

土地利用別 みどり面 【目標：2027年度、220haのみどり面の増加】

〔図3〕土地利用別みどり面 目標と進捗状況



2018年から2027年までの10年間で220ha増加を目指しているが、2016年から2021年の5年間で46ha減少している。

みどりの資源調査結果を基に作成

※目標量は2018年から2027年までの10年間で目指すみどり面の変化量

※現況は2016年から2021年の5年間で進捗したみどり面の変化量

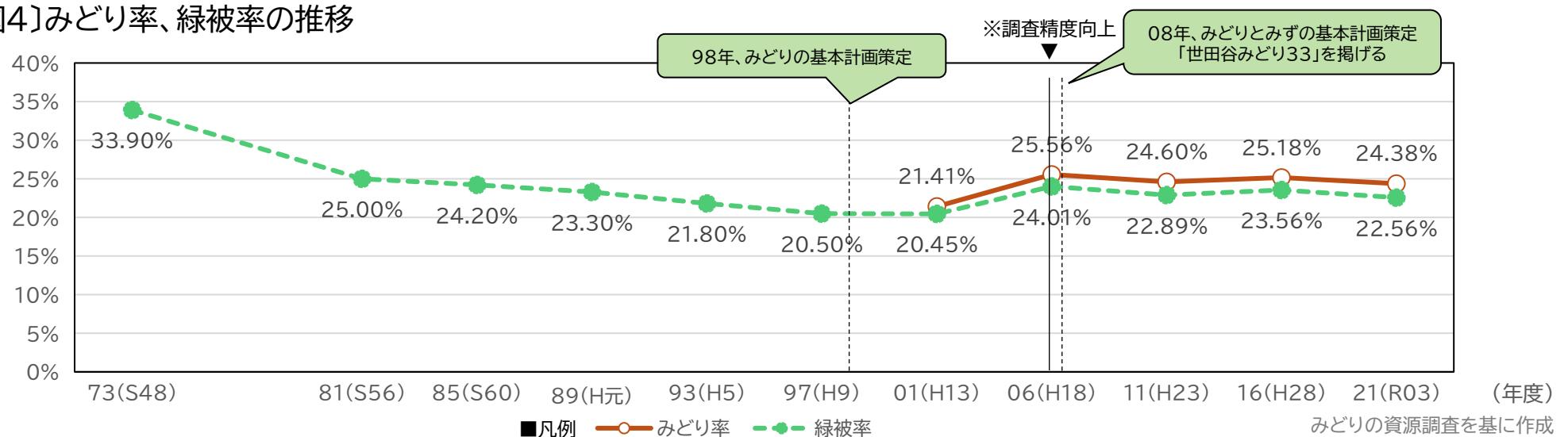
2. データに基づく分析状況

a. 区全体のみどり率の推移

- みどり率は2006年以降、ほぼ横ばいで推移している。なお2001年より前の緑被率については、減少傾向であった。
- 現時点での最新の調査結果である2021年は、みどり率が24.38%、緑被率が22.56%であった。
- みどり率は、調査精度が現在のレベルに向上した2006年以降、約1%(面積換算58ha)以内で増減を繰り返し、25%前後とほぼ横ばいの推移となっている。
- 緑被率についても、みどり率と同様、2006年から2021年の15年間ではほぼ横ばいで推移している一方で、1981年～2001年までの20年間では右肩下がりの減少傾向(20年で4.5%減)である。
- みどり率の目標設定が10年間の変化量(2018年～2027年)となっていること、また最新データが2021年であることから、これ以降のみどり率の推移の検証については、2011年から2021年の推移を中心に見ていくものとする。

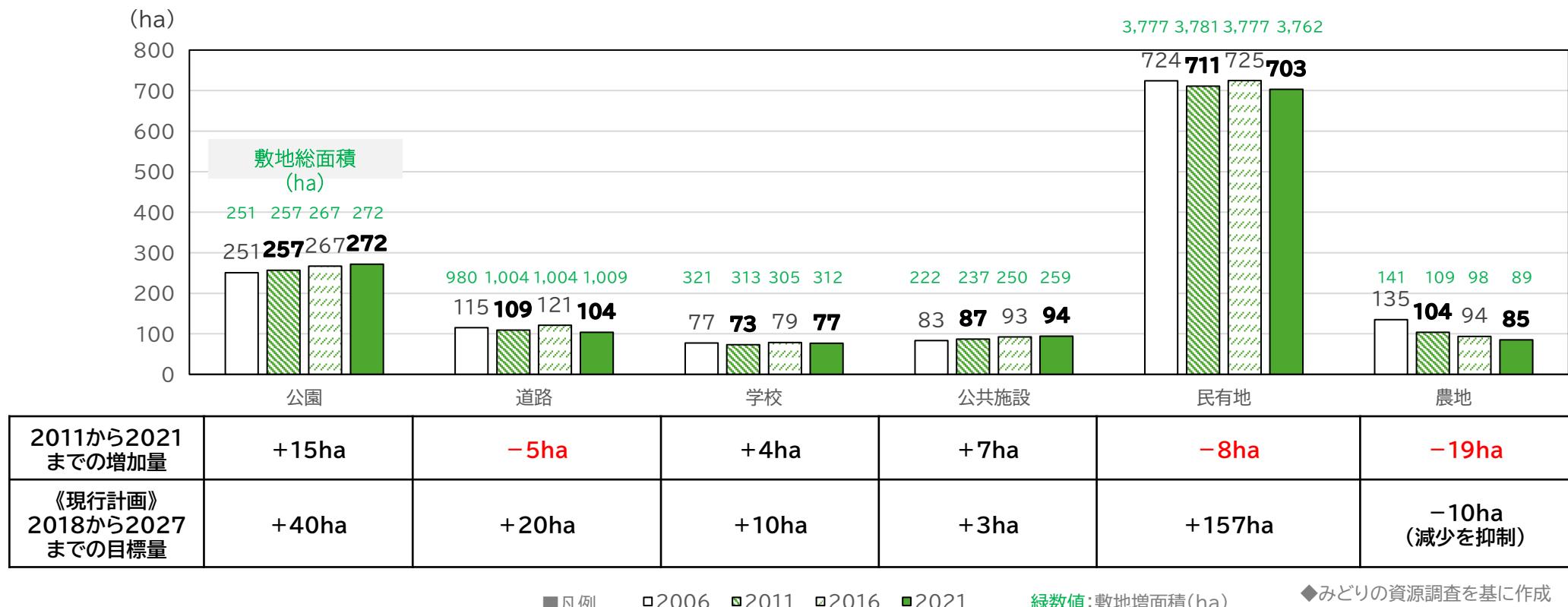
※ 東京都が2000年に策定した「緑の東京計画」において、緑被率に「水面」と「公園の緑で覆われていない部分」を加えた新たな指標として「みどり率」を設定したことを受け、世田谷区では2001年からみどり率の調査を実施している。

[図4]みどり率、緑被率の推移



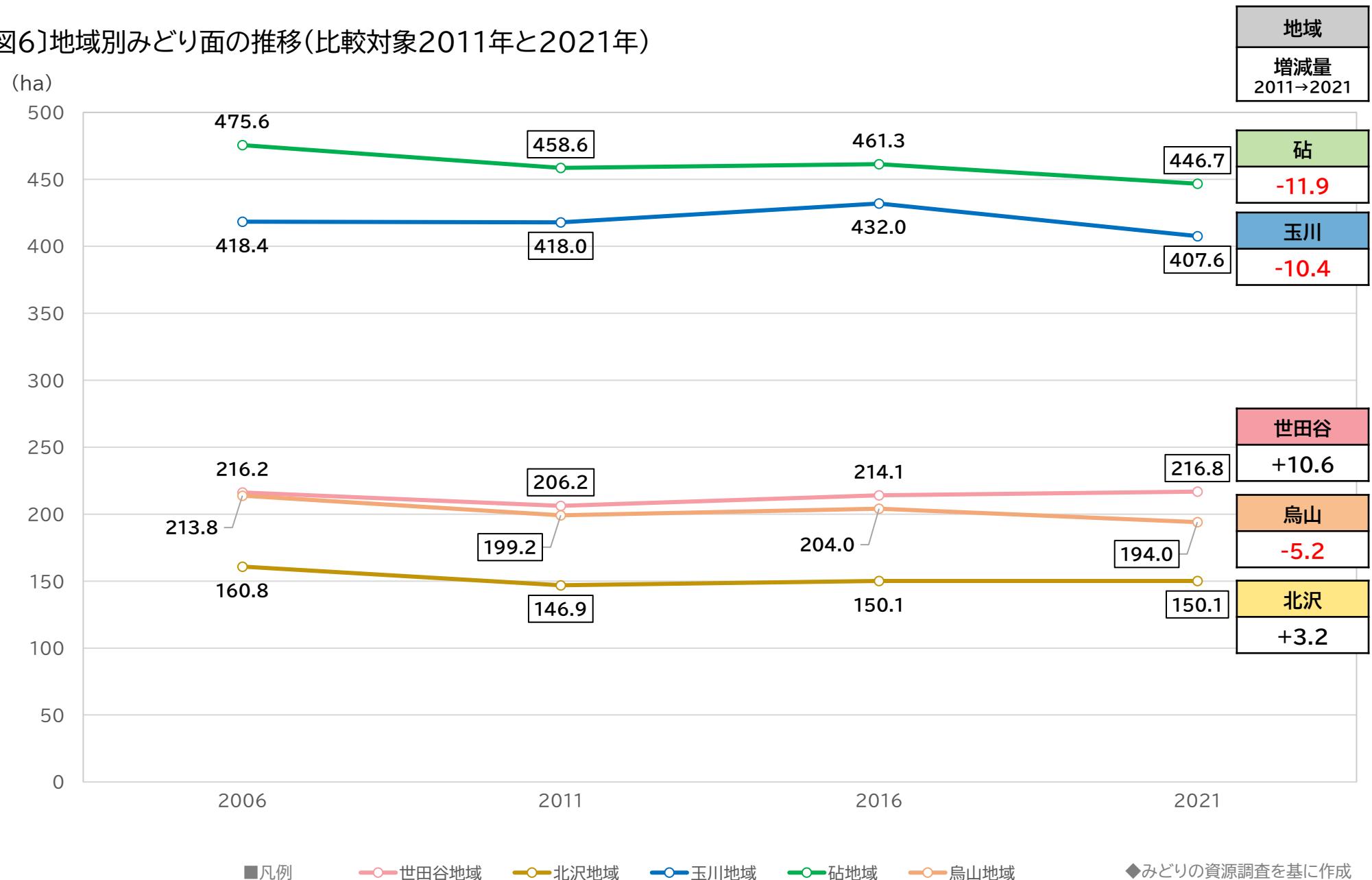
- 2011年と2021年の土地利用別のみどり面を比較すると、最も減少しているのは農地で、次に民有地となっている。地価の高い都市部における農地や屋敷林などの民有地のまとまったみどりの減少は相続時の税負担が要因の1つとされており、本区においても同様の要因から減少していることが推察される。
- 道路のみどり面の減少については、基本的に既存の街路樹の廃止ではなく、道路沿いの樹木の消失や樹冠面積の縮小による緑被の減少と推察される。
- 一方でみどり面が最も増加しているのは公園、次いで公共施設、学校と続く。公共施設は敷地面積が22ha増加(259ha[2021年]-237ha[2011年])、学校敷地は1ha減少(312ha[2021年]-313ha[2011年])しており、新設による緑化の促進、既存樹木の成長、植栽の追加などが要因と推察される。

〔図5〕土地利用別のみどり面の推移(比較対象2011年と2021年)



- 2011年と2021年のみどり面を比較すると、玉川・砧・烏山の3地域は減少している一方、世田谷・北沢の2地域は増加している。

[図6]地域別みどり面の推移(比較対象2011年と2021年)



※ここでは、「公園」「民有地」「農地」の3区分を中心についていく。

- ・みどり面が増加している世田谷・北沢地域を土地利用別に見ると、いずれも「民有地」の増加が顕著である。一方、玉川・砧・烏山地域は「民有地」のみどり量が減少し、特に玉川地域の減少量は他の地域と比べると大きい。
- ・民有地のうち、すでに宅地化が進んでいる地域においては緑化地域制度(全国で4自治体のみ導入している都市緑地法に基づく緑化義務)等による緑化基準が影響しみどり面の増加があり、屋敷林や庭園などまとまったみどりの残る地域においては開発等によるみどり面の減少が進んでいると推察される。
- ・農地は全地域で減少しており、特に砧地域・烏山地域の減少量が大きい。
- ・公園は全地域で整備を進めており、面積も増え、特に玉川地域は増加が大きい。公園の増加は民有地や農地の減少の一部が公有地化され緑地が保全された結果と捉えられる。
- ・「公園整備」や「宅地化された地域での緑化規制」等によるみどり面の増加と、「緑地や農地が残る地域での開発」等によるみどり面の減少が拮抗しており、地域によって、そのバランスや傾向が異なることが見えてきた。

[図7]地域別・土地利用別みどり面の推移(比較対象2011年と2021年)

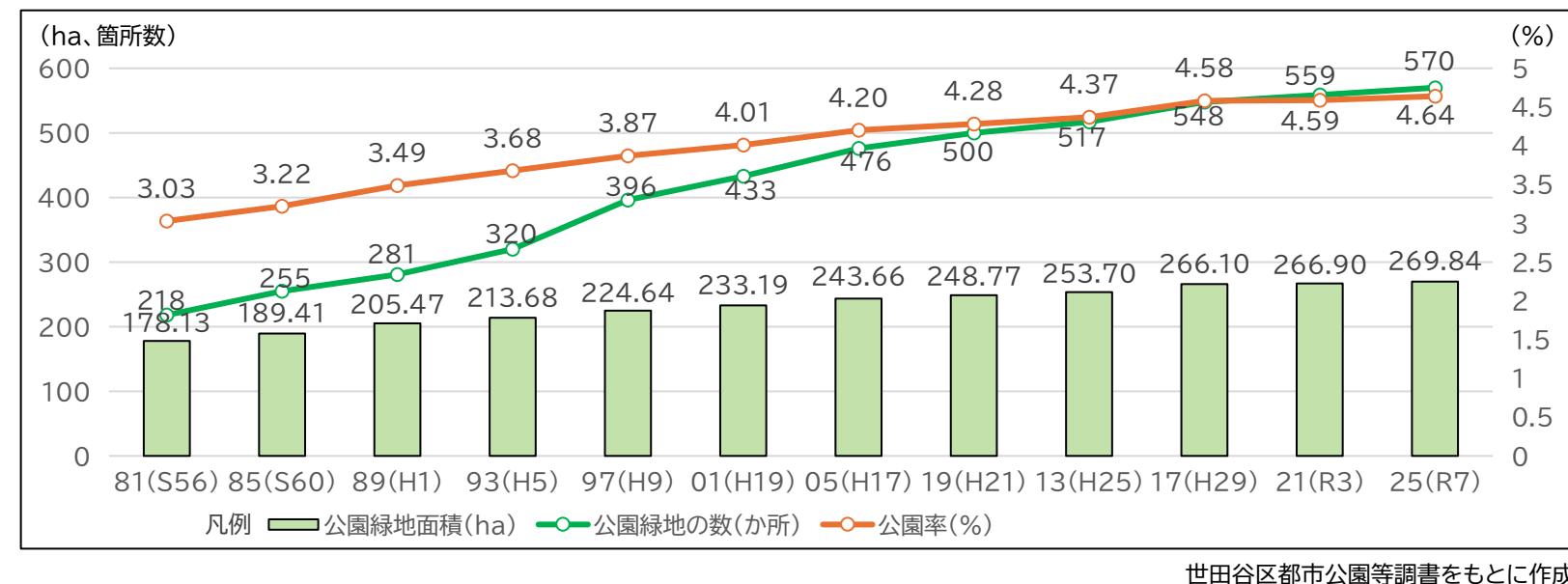
| 地域 ・ 年度 | 世田谷 | | 北沢 | | 玉川 | | 砧 | | 烏山 | | |
|---------------|--------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|
| | 2011 | 2021 | 2011 | 2021 | 2011 | 2021 | 2011 | 2021 | 2011 | 2021 | |
| 公園 | みどり面 (ha) | 30 | 31 | 16 | 17 | 71 | 80 | 118 | 120 | 22 | 25 |
| | 増減 (ha) | +1 | | +1 | | +9 | | +2 | | +3 | |
| 民有地 | みどり面 (ha) | 121 | 128 | 91 | 98 | 211 | 200 | 193 | 187 | 105 | 101 |
| | 増減 (ha) | +7 | | +7 | | -11 | | -6 | | -4 | |
| 農地 | みどり面 (ha) | 5 | 4 | 5 | 4 | 24 | 22 | 41 | 33 | 27 | 22 |
| | 増減 (ha) | -1 | | -1 | | -2 | | -8 | | -5 | |

※端数処理により、P.6記載の値と異なる場合がある。

e. みどりの量にかかる施策

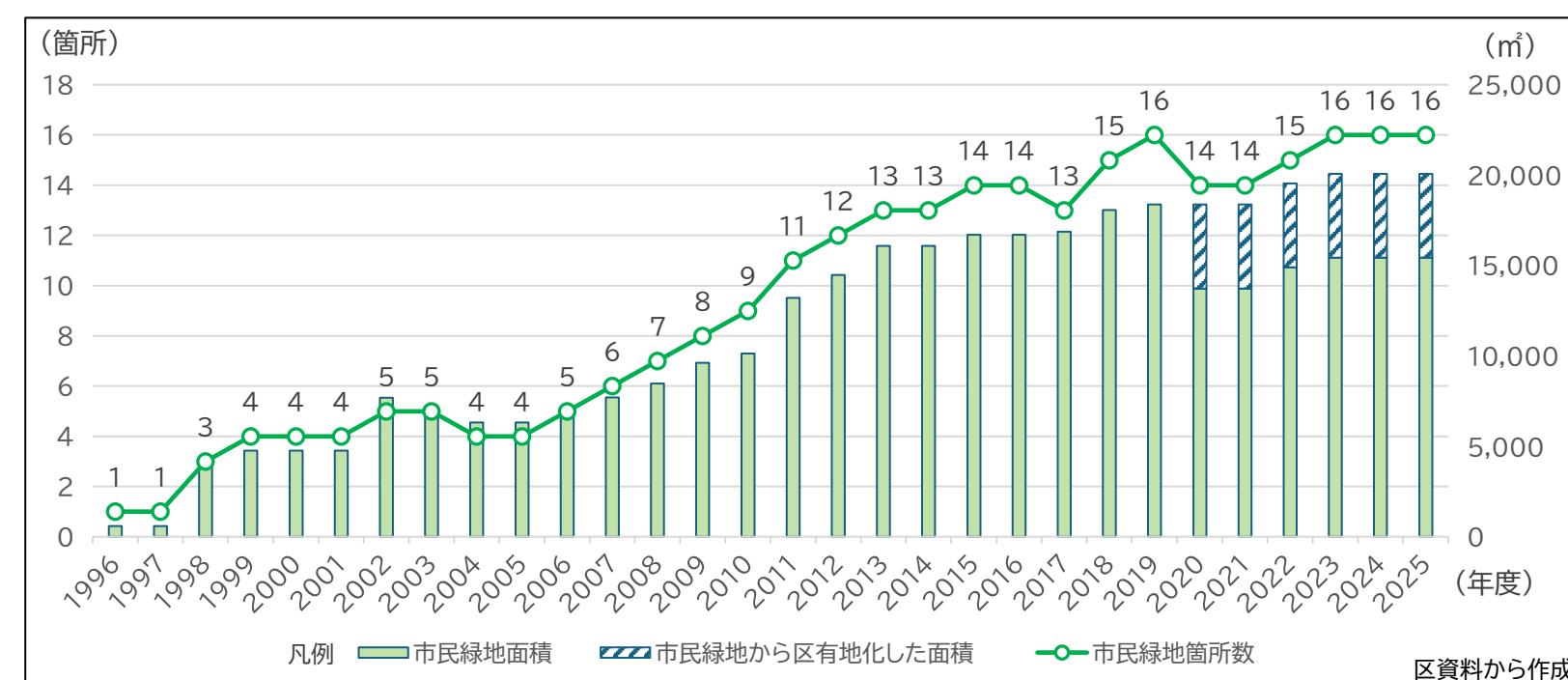
- 公園緑地の整備が進み、地域に永続的に存在する担保性のあるみどりが増加している。[図8]
- 市民緑地等、行政が保全に関与しているみどりも増加している。また解除された市民緑地の一部は、公有地化され担保性のあるみどりとして保全されている。[図9]

[図8]公園緑地の箇所数、面積、公園率の推移



世田谷区都市公園等調書をもとに作成

[図9]市民緑地の指定箇所数、面積の推移

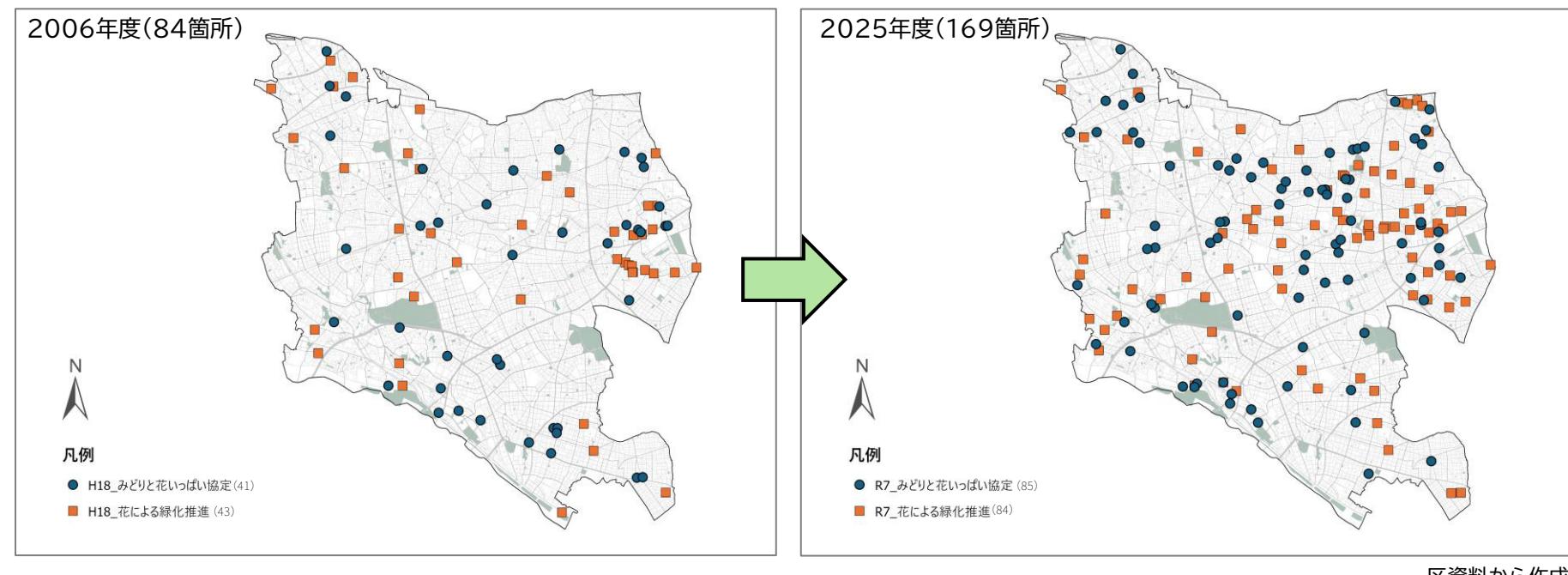


区資料から作成

f. 協働促進にかかる施策

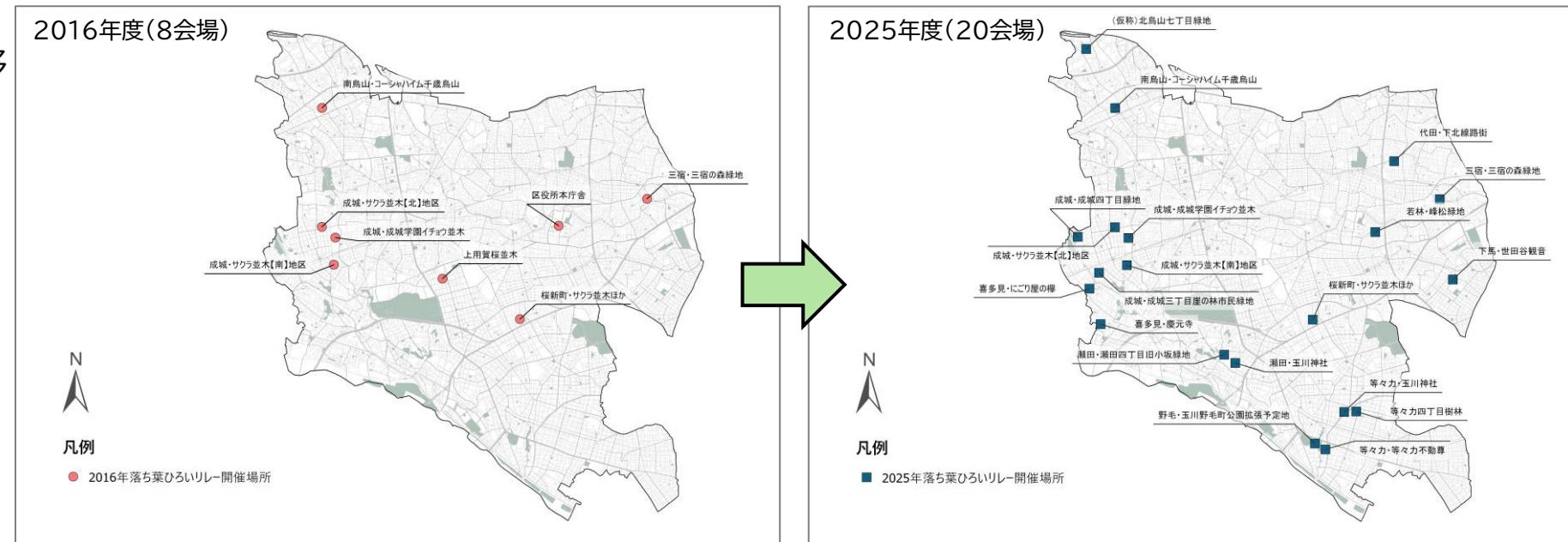
- 協働の促進にかかる施策の1つである、花いっぱい活動は20年前に比べ、拡大している[図10]。また、落ち葉ひろいリレーは開始当初に比べ、拡大している[図11]。

[図10]みどりと花いっぱい協定・花による緑化推進協定の活動箇所の推移



区資料から作成

[図11]落ち葉ひろいリレー開催場所の推移

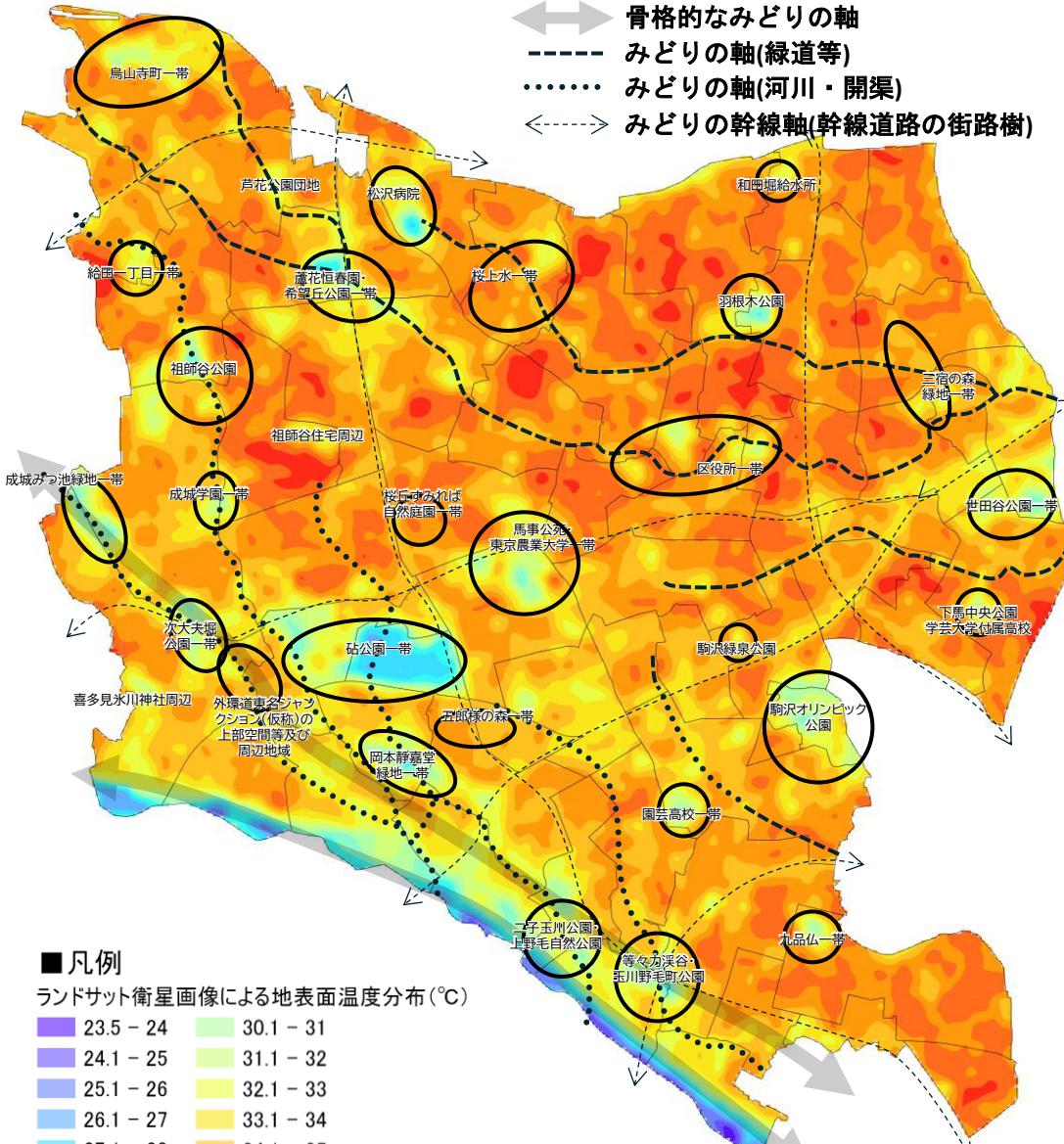


区資料から作成 10

g. みどりの効果

- 地表面温度分布と緑被分布を比較すると、周辺よりも気温が低くなっているエリアには、まとまりのある緑が位置している。区内のまとまったみどりがクールスポットとなっており、暑熱の緩和に対してみどりが効果をもたらしていることが推察される。

[図12] ■地表面温度分布

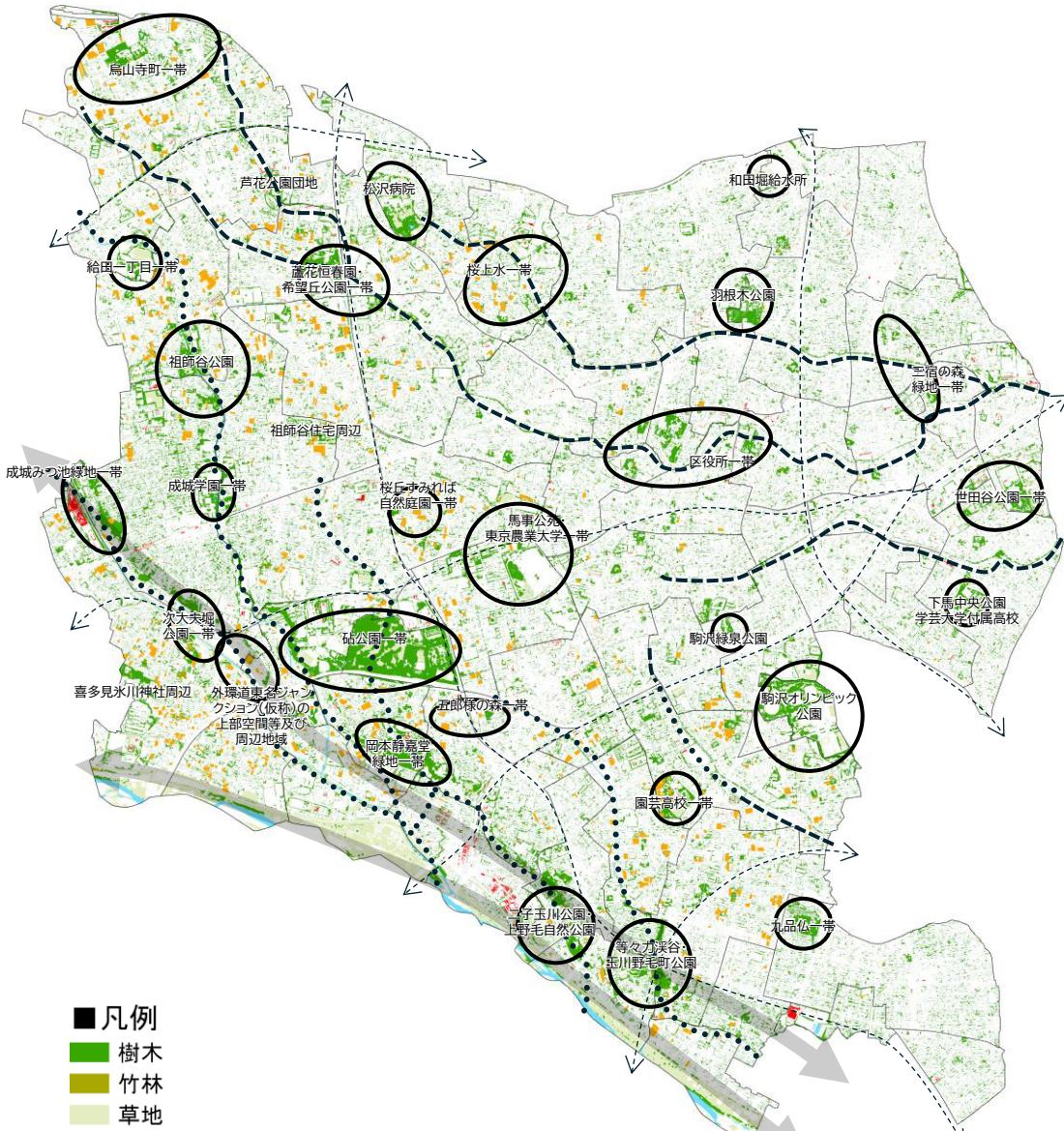


- ①【使用したランドサット衛星画像の撮影日時】
2024年6月19日 10:15頃
②【同日の東京管区気象台が観測した気温】
10:10の気温 : 27.3°C 10:20の気温 : 27.4°C

【現行計画におけるみどりのネットワークの要素】

- みどりの拠点
- 骨格的なみどりの軸
- みどりの軸(緑道等)
- みどりの軸(河川・開渠)
- みどりの幹線軸(幹線道路の街路樹)

[図13] ■緑被分布



- ・みどり率は横ばいだが、公園など担保性のあるみどりや、市民緑地など行政が保全に関与しているみどりは増加している。また、区全体のみどり面は減少しているが、世田谷・北沢地域のみどり面は増加傾向であり、5地域ごとに状況や課題の違いが見えてきた。
- ・量・質・協働の向上に資する施策の広がりを確認した。
- ・暑熱の緩和に対してみどりが効果をもたらしていることが推察される。

3. みどりに関するプレアンケート

(A) みどりのアンケート

〔回答数〕 417件 (web: 374件、紙: 43件)

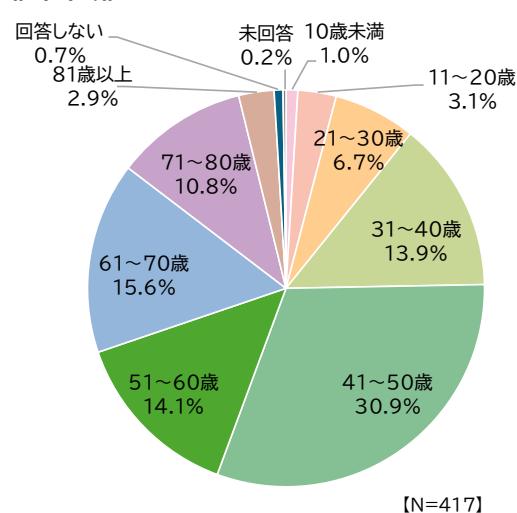
a. 回答者の属性

- 居住年数20年以上が5割弱、11年以上20年未満が2割弱、また持ち家の方が回答者の7割弱を占め、年代は40代が最も多く3割であった。

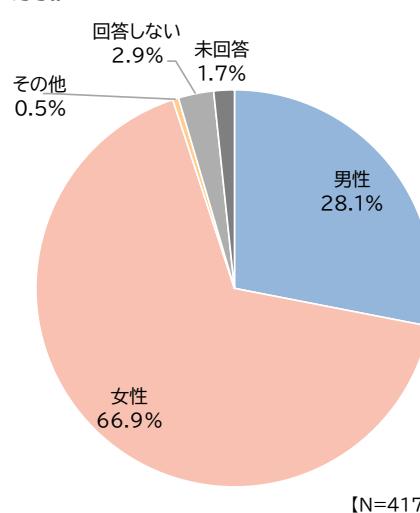
■回答者属性

有効回収数:417件

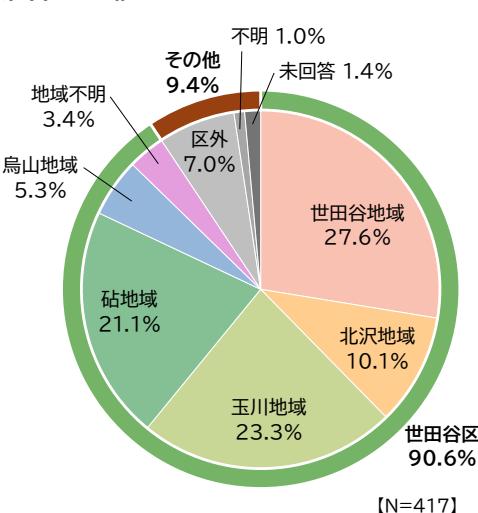
《年代》



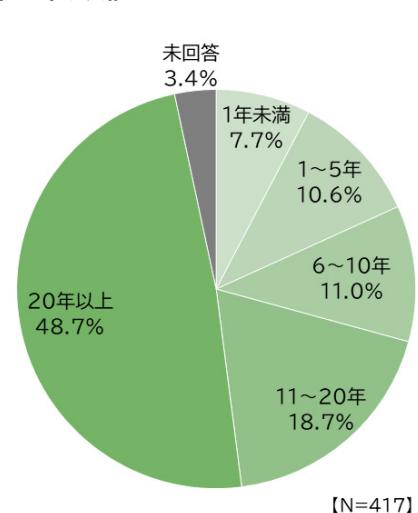
《性別》



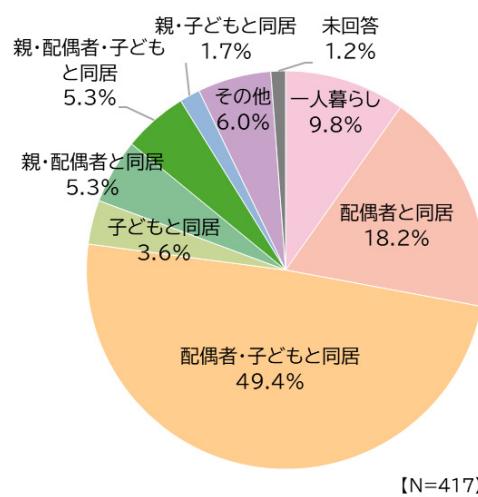
《居住地》



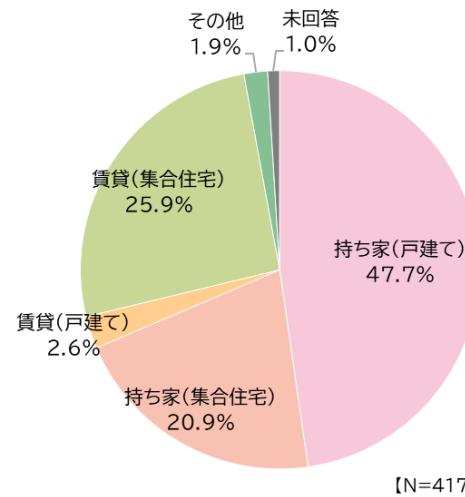
《居住年数》



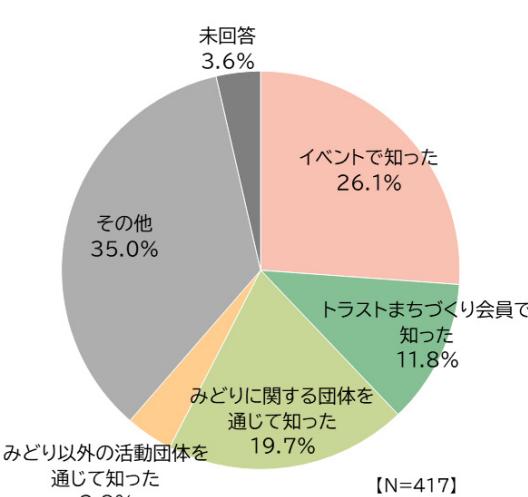
《住居形態》



《家族構成》



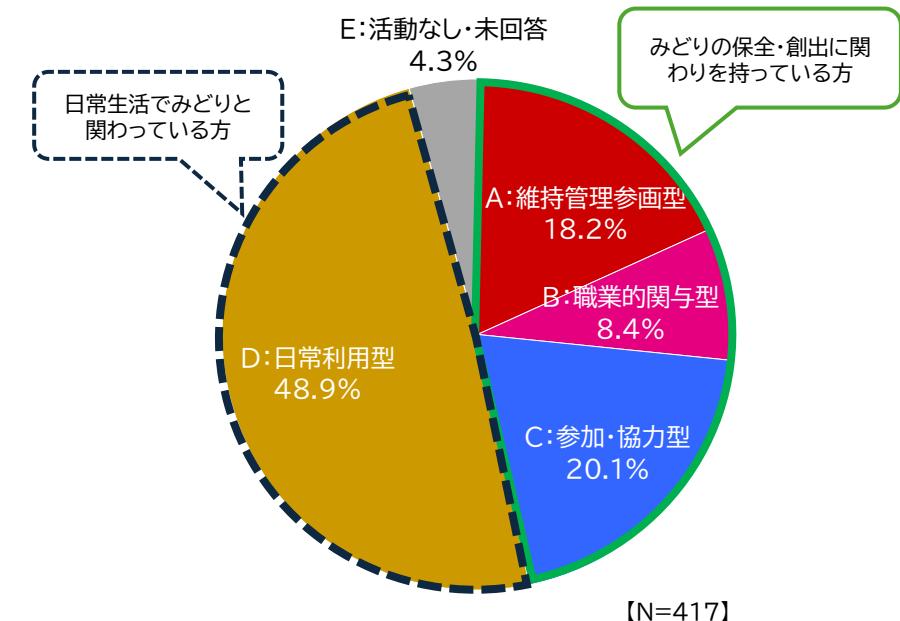
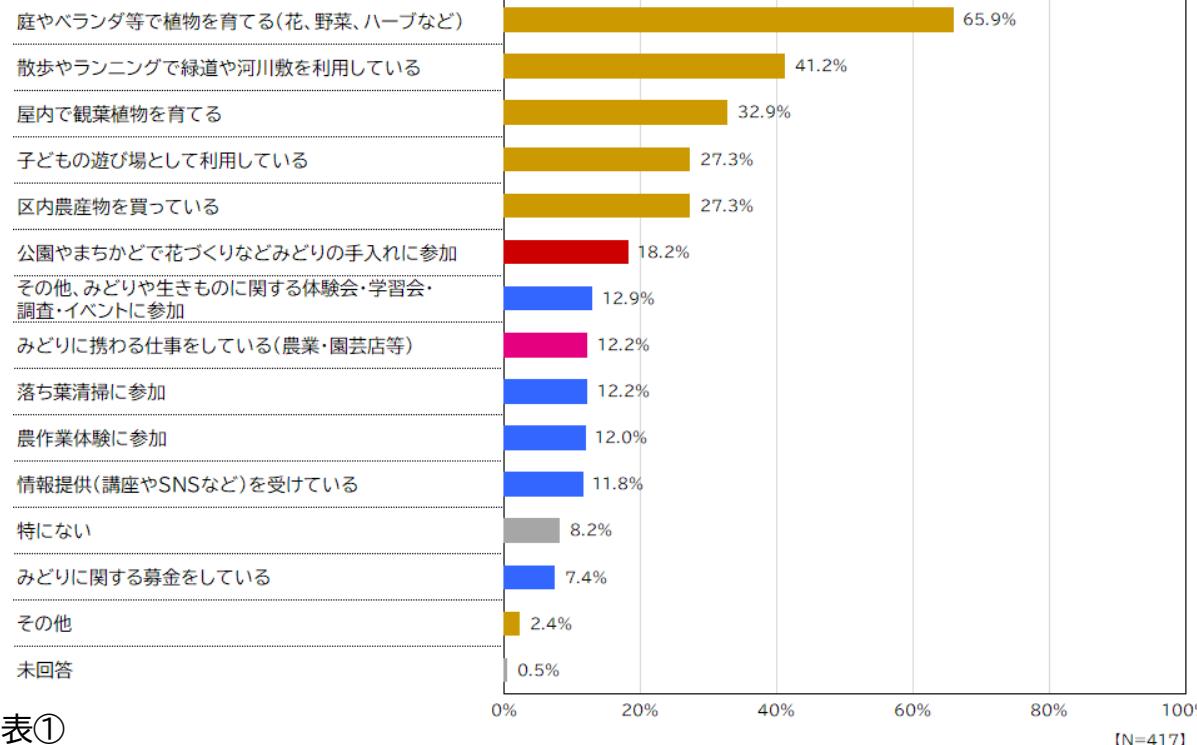
《アンケートを知った経緯》



b. みどりに関する活動・関わりと回答者のタイプ別分類

- 現在取り組んでいる「みどり」の活動の内容に応じて、表①のとおり、回答者をみどりに関する活動や関わりでA～Eの5つの活動タイプ別に分類したところ、図②のとおり、「みどりの保全・創出に関わりを持っている方(A:公園やまちかどでみどりの維持管理、B:農業などみどりに携わる仕事、C:落ち葉清掃、募金などに参加)」が46%、「日常生活でみどりと関わっている方(D:散歩や子供の遊び場として公園等を利用するなど)」が48%であった。

〔問〕現在取り組んでいる「みどり」の活動について、以下の中から該当するものを教えてください



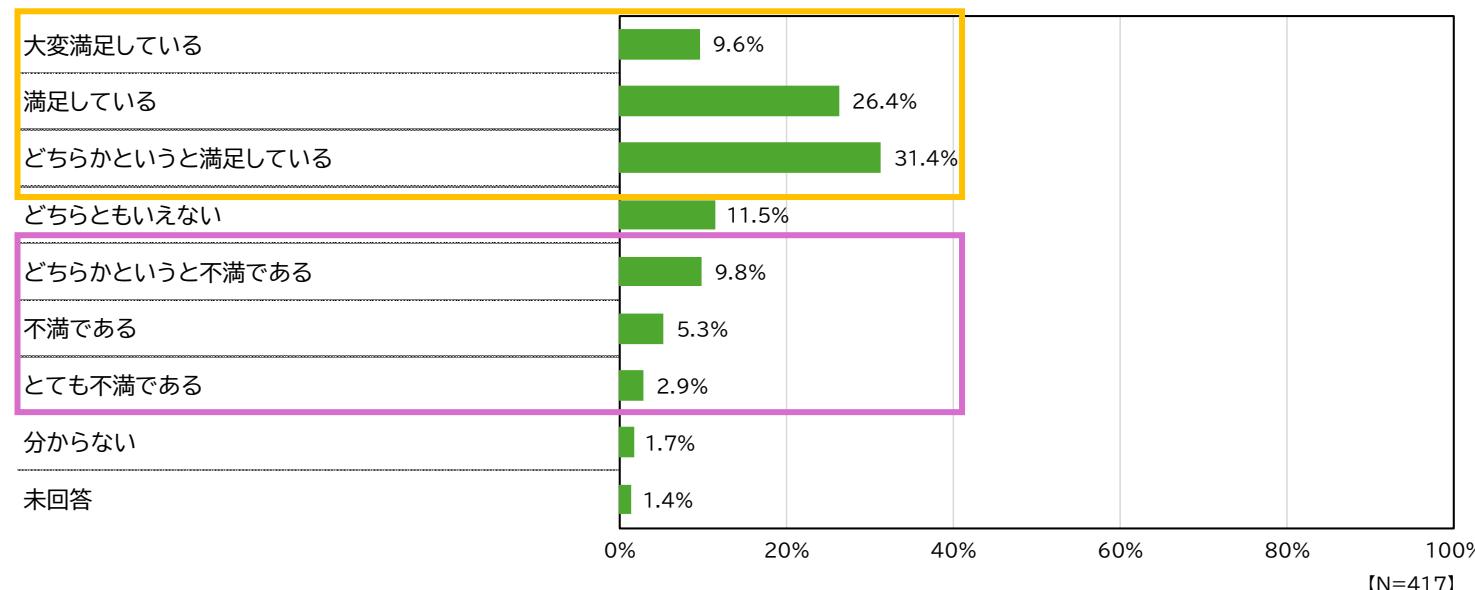
表①

| 活動タイプ別分類 | | 内容 |
|----------|---|--|
| A | 維持管理参画型：公共空間のみどりの手入れに関わる活動をしている回答者 | 選択肢「公園やまちかどで花づくりなどみどりの手入れに参加」を含む選択肢を選んだ回答者 |
| B | 職業的関与型：仕事としてみどりに携わる回答者 | 上記Aを除き、選択肢「みどりに携わる仕事をしている(農業・園芸店等)」を含む選択肢を選んだ回答者 |
| C | 参加・協力型：イベントや清掃、募金など、一定の時間や労力を伴う協力的な活動に取り組む回答者 | 上記A、Bを除き、以下のいずれかの選択肢を選んだ回答者 ・「みどりに関する募金をしている」・「落ち葉清掃に参加」・「農作業体験に参加」・「情報提供(講座やSNSなど)を受けている」・「その他、みどりや生きものに関する体験会・学習会・調査・イベントに参加」 |
| D | 日常利用型：植物を育てる、散歩など、日常生活の中でみどりと触れ合う回答者 | 上記A、B、Cを除き、以下のいずれかの選択肢を選んだ回答者 「庭やベランダ等で植物を育てる(花、野菜、ハーブなど)」「屋内で観葉植物を育てる」「子どもの遊び場として利用している」「散歩やランニングで緑道や河川敷を利用している」「区内農産物を買っている」「その他」 |
| E | 活動なし・未回答 | 上記A、B、C、Dを除き、選択肢「特にない」を選んだ回答者、及び未回答の回答者 |

※本項目については、調査方法や選択肢が異なり、計画に示す区民満足度目標と単純比較はできないものである。なお、計画に示す満足度については、これまでの区政モニターアンケートで調査を行い、選択肢は、「大変満足」「どちらかというと満足」「どちらでもない」「どちらかというと不満」「不満」「分からない」の6択の問であった。今回、イベント参加者やみどりに関わりのある区民を中心にアンケートを実施し、満足・不満の選択肢を「大変満足」「満足」「どちらかというと満足」のような3種とし8択の問で実施している。

- 「大変満足」「満足」「どちらかというと満足」と回答した人は67%、「とても不満」「不満」「どちらかというと不満」は18%であった。(調査条件が異なり、計画目標の区民満足度と単純比較はできない。)
- 理由としては、「みどりが多い」といった量に関する意見のほか、「野生生物も見ることができる」といったみどりの効果の発揮や、「みどりを取り巻くコミュニティ活動が豊富」など区民協働について、また維持管理に言及する意見があり、量だけでなく質や協働も満足度の要因であることが分かった。

〔問〕世田谷のみどりの状況についてどのように感じているか理由とあわせて教えてください（1つ選択）



d. 「世田谷みどり33」の認知度と共感、区の施策

- 「世田谷みどり33」を5割以上が知らないと回答していた。

〔問〕「世田谷みどり33」という目標を知っていますか（1つ選択）



「世田谷みどり33」は、「みどりを育み、次世代へと続くみどりを守っていく」という思いをこめた区の目標である。公募で決まったマーク(左図)とともに様々なPRで活用している。

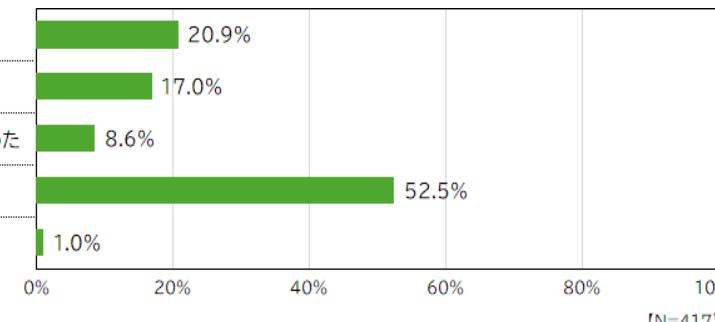
内容も含めて、知っている

なんとなく知っている

見たこと・聞いたことはあるが、内容は知らなかった

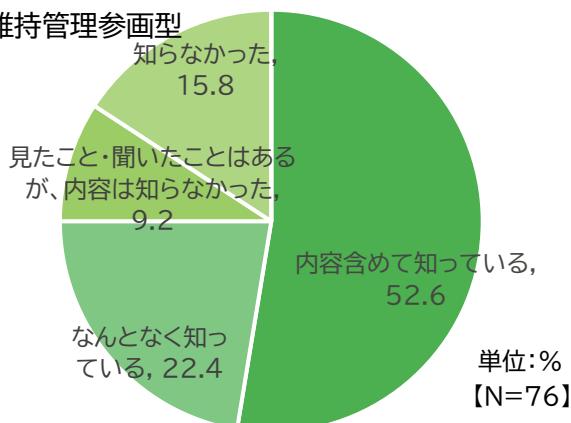
知らなかった

未回答

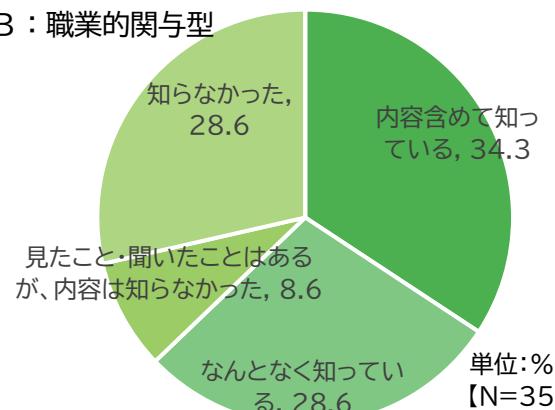


- 活動タイプ別にみると、みどりの活動に深く関わっているタイプほど認知されていた。

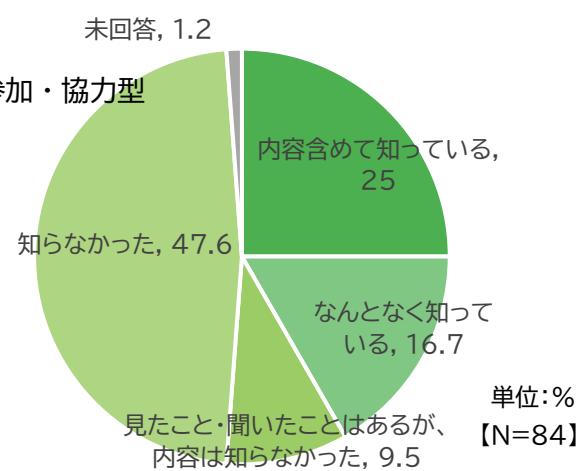
■ A：維持管理参画型



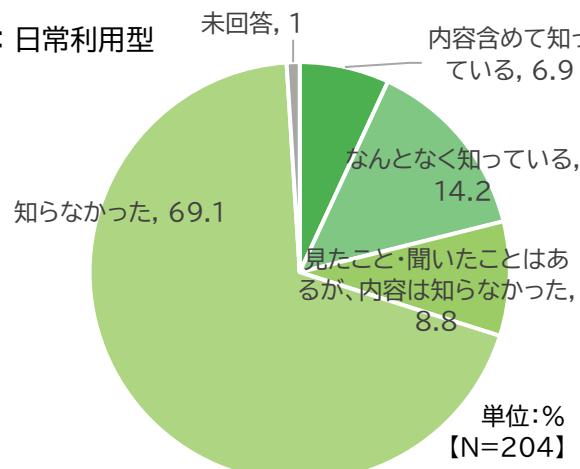
■ B：職業的関与型



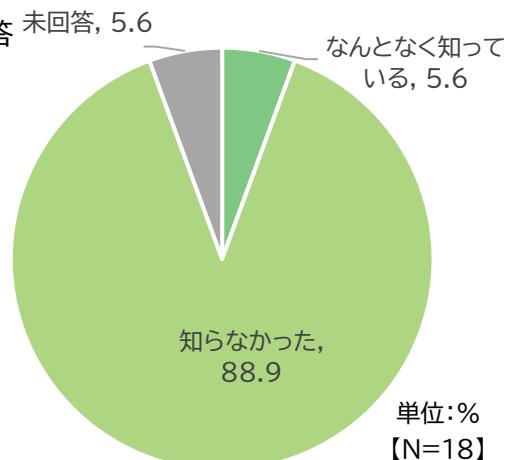
■ C：参加・協力型



■ D：日常利用型

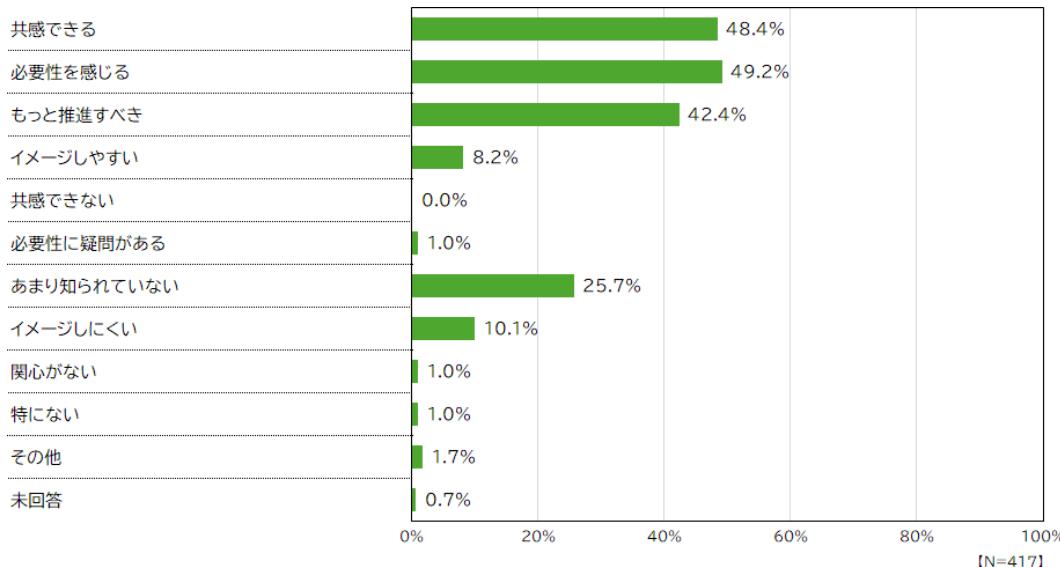


■ E：活動なし・未回答



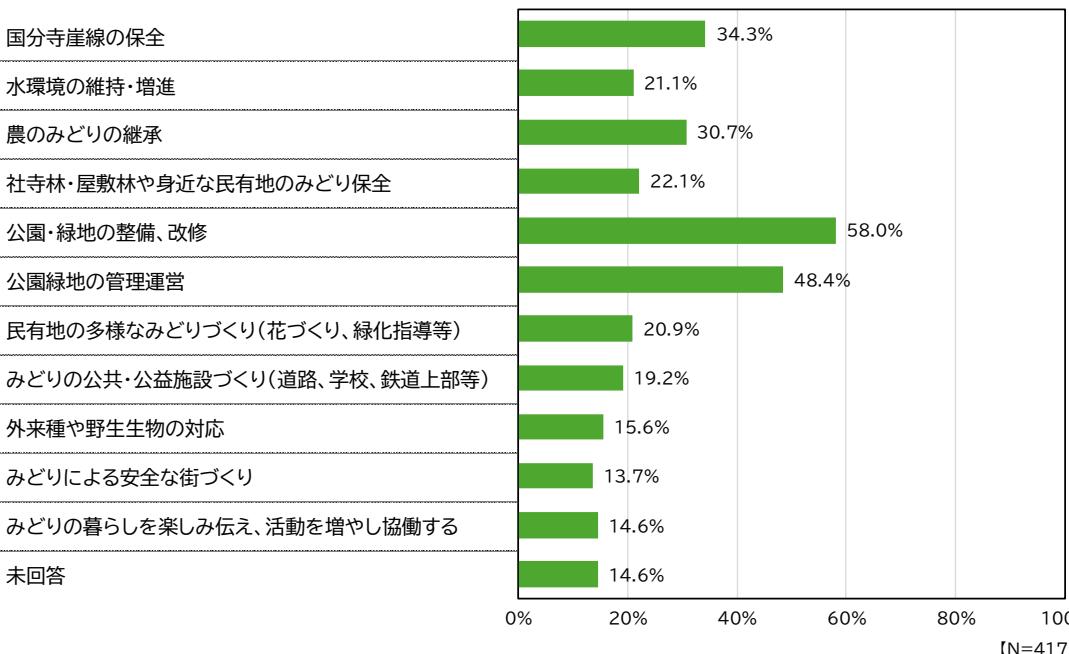
- 「世田谷みどり33」のもと進めている取組みについてはポジティブな回答が多く、ネガティブな回答は少なかった。
- あまり知られていないという意見が25%あった。
- 周知力については「イメージしやすい」「イメージしにくい」という相反する意見が各々1割前後あった。

[問]「世田谷みどり33」のもと区が進めているみどりの取組みについてどのような印象か理由もあわせ教えてください（複数選択可）（「世田谷みどり33」についてご存じない方もお答えいただければと思います。）



- 具体的な施策の認知度について、最も高いのは公園に関すること（「公園・緑地の整備、改修」及び「公園緑地の管理運営」）、続いて「国分寺崖線の保全」、「農のみどりの継承」だった。
- 認知度が低いのは、「みどりによる安全な街づくり」「みどりの暮らしを楽しみ伝え、活動を増やし協働する」「外来種や野生生物の対応」であった。

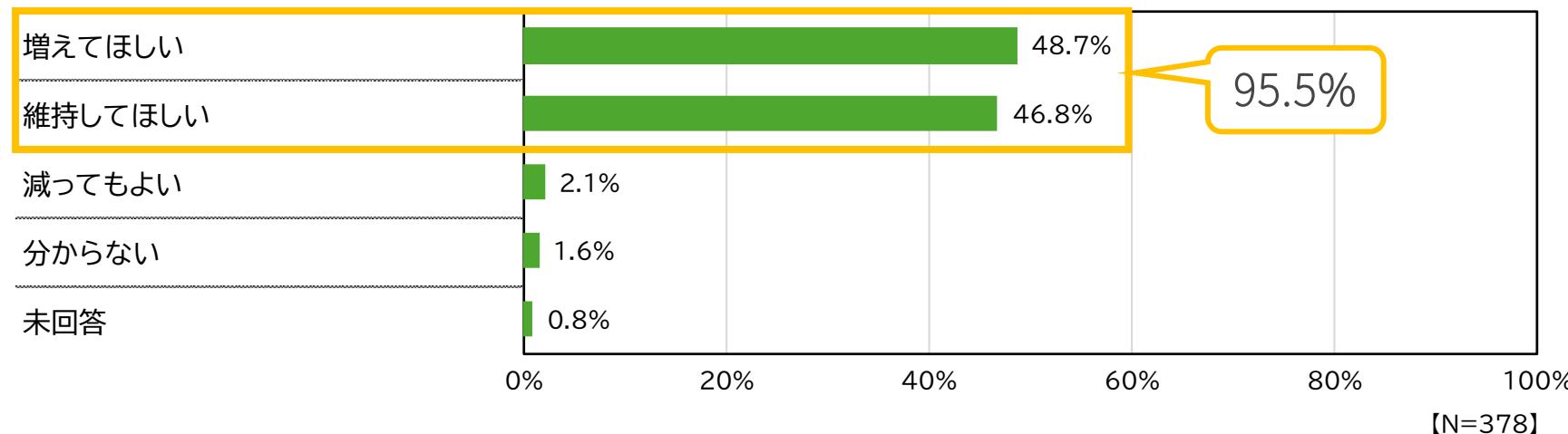
[問]次の世田谷区の取組みのうち、ご存じのものを教えてください（複数選択可）



e. 地域のみどりの増減について

- 「増えてほしい」及び「維持してほしい」を合わせると95%以上がみどりを維持・増加したいという回答であった。
- 理由としては、暑さ対策や生物多様性などみどりの効果への期待や、みどりの減少への危機感、また「子供たちの未来のために緑があることが大切」などの意見があった。

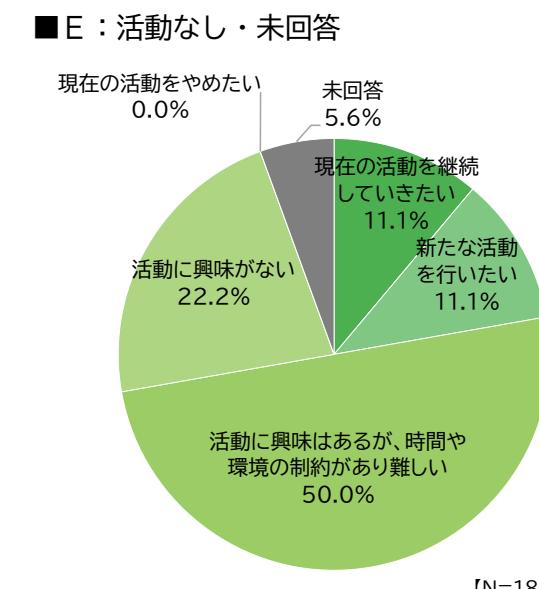
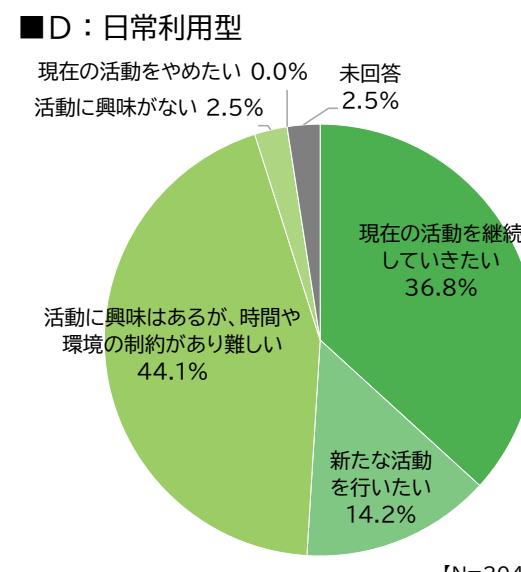
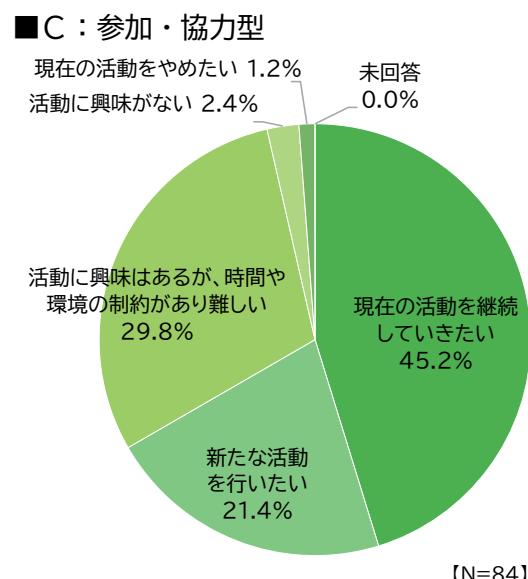
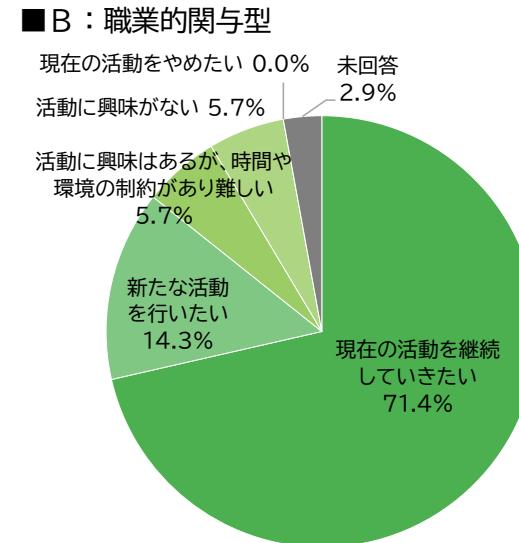
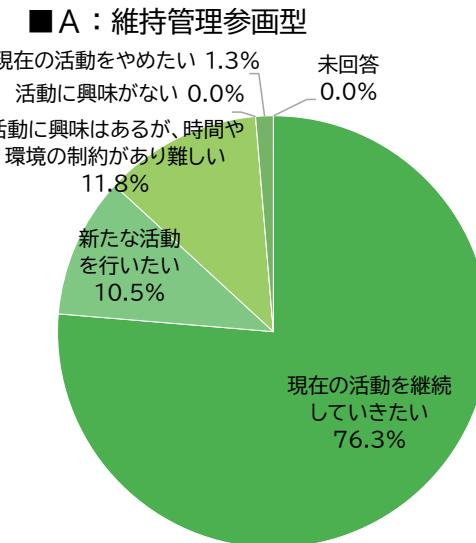
〔問〕お住まいの地域のみどりについて、お考えを理由と合わせて教えてください（1つ選択） ※世田谷区居住者のみ集計



f. 今後のみどりの活動について

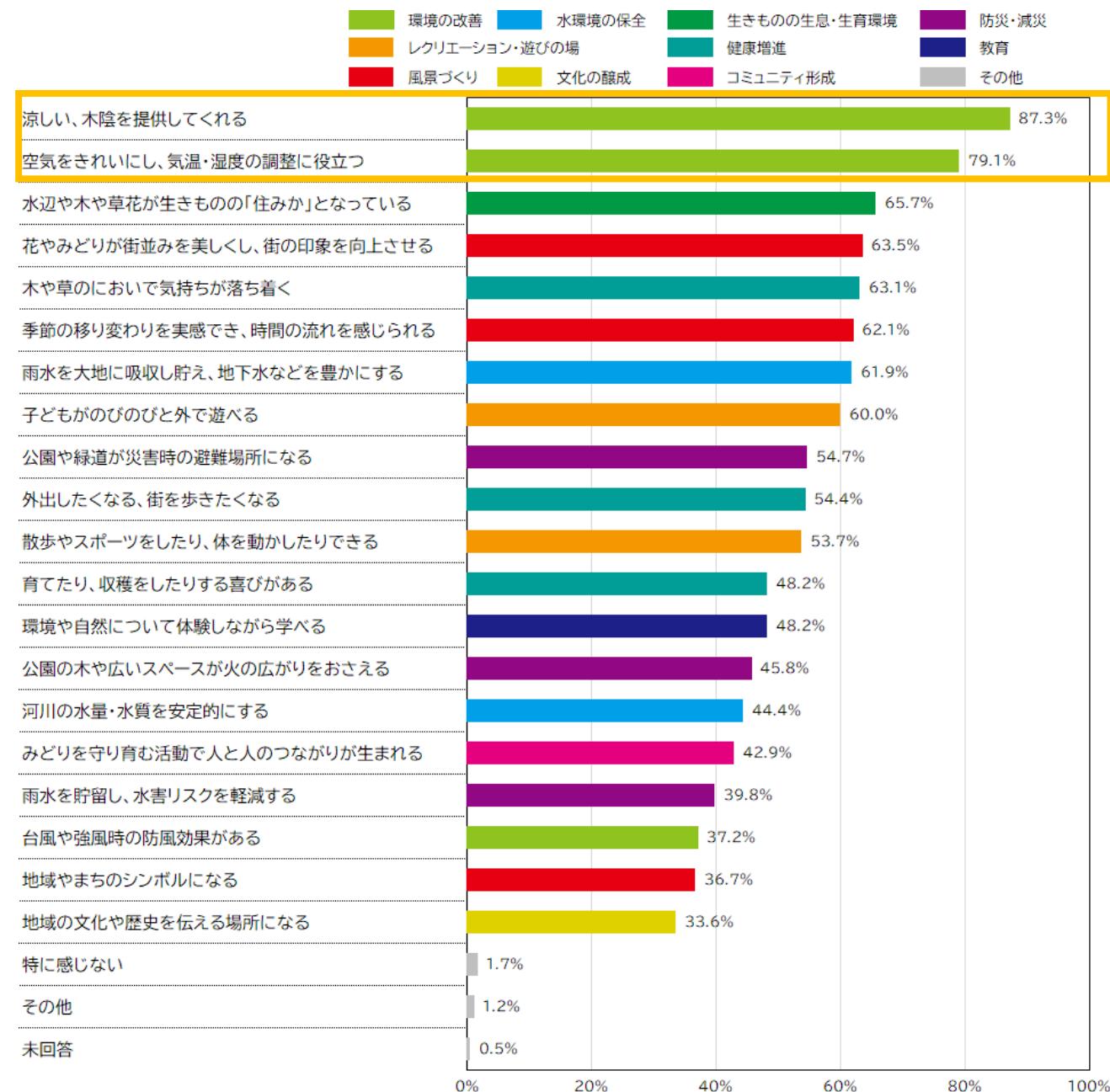
- タイプA・B、C、Dの順で、活動継続または新たな活動の意向を選択する割合が高く、みどりの活動により深く関わっている方ほど、活動の継続や新たな活動の意向が高い傾向が見られた。

[問]みどりの活動について、あなたの考えにもっとも近いものを教えてください（1つ選択）



g. 関心のあるみどりの効果

- 「涼しい、木陰を提供してくれる」が9割弱、「空気をきれいにし、気温・湿度の調整に役立つ」が8割弱と「環境の改善」のうち、暑熱緩和に関する項目が上位であった。続いて「生きものの住みか」「街並みを美しくし印象を向上させる」「気持ちが落ち着く」が65%前後であった。



3. みどりに関するプレアンケート

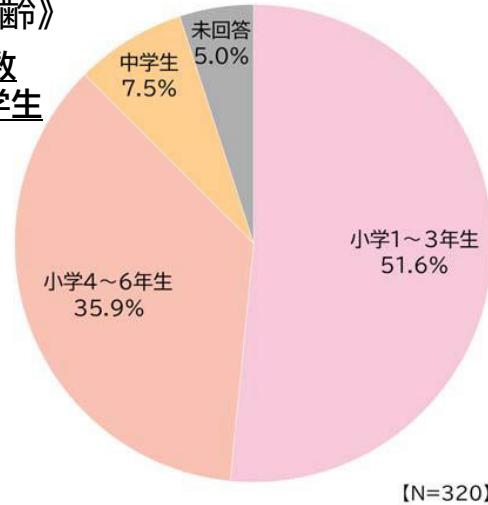
(B) 小学生・中学生向けみどりのアンケート

(回答数) 320件 (web: 46件、紙: 274件)

〔属性〕

《年齢》

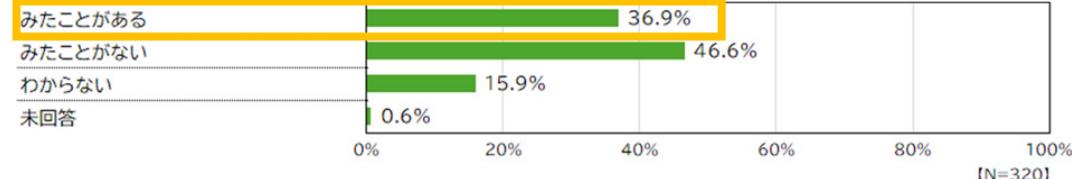
- 属性は小学1～3年生が約半数を占め、全体の87.5%が小学生であった。



〔問〕右のマークをみたことはありますか。(○は1つ)

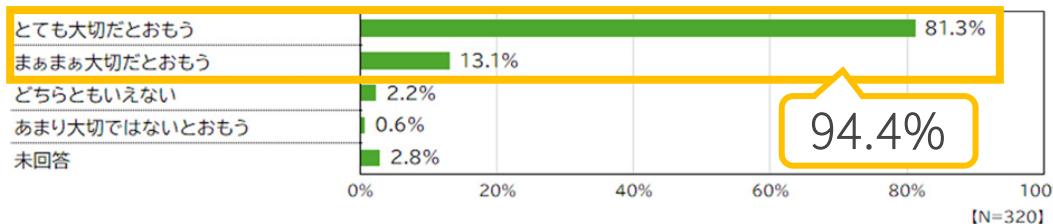


世田谷みどり33



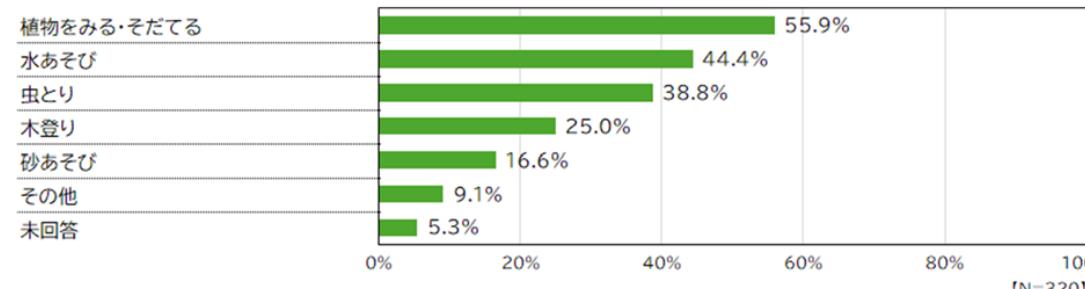
- 「世田谷みどり33」のシンボルマークを見たことがあると回答したのは36.9%で、6割以上が見たことがない・わからないと回答した。

〔問〕みどりは大切だと思いますか(○は1つ)



- 「とても大切だと思う」と「まあまあ大切」の回答を合わせた94.4%がみどりを大切と思っていた。

〔問〕みどりのあるばしょでどのような過ごし方をしますか(○はいくつでも)



- みどりのある場所での過ごし方としては、「植物を見る・育てる」が最も多く、次いで「水あそび」「虫とり」と続いた。
- 自由意見では「ゆっくり過ごす」「のんびりする」という回答も見られた。

みどりに关心・関わりのある方を中心とした意見として、以下のことが分かった。

- ・みどりの取組みに共感し、みどりの増加・維持を望む意見が多かった。
- ・みどりの満足度を判断する理由として、量の他に、維持管理などの「みどりの質」や活動支援など「協働」の取組みの向上や充実を挙げる意見があった。
- ・みどりの取組みにより深く関わっている方ほど、「世田谷みどり33」の認知度が高く、またみどり活動への意欲も高い傾向がみられた。